令和5年度 特別支援学校寄贈物品　使用状況報告書 【1年目】

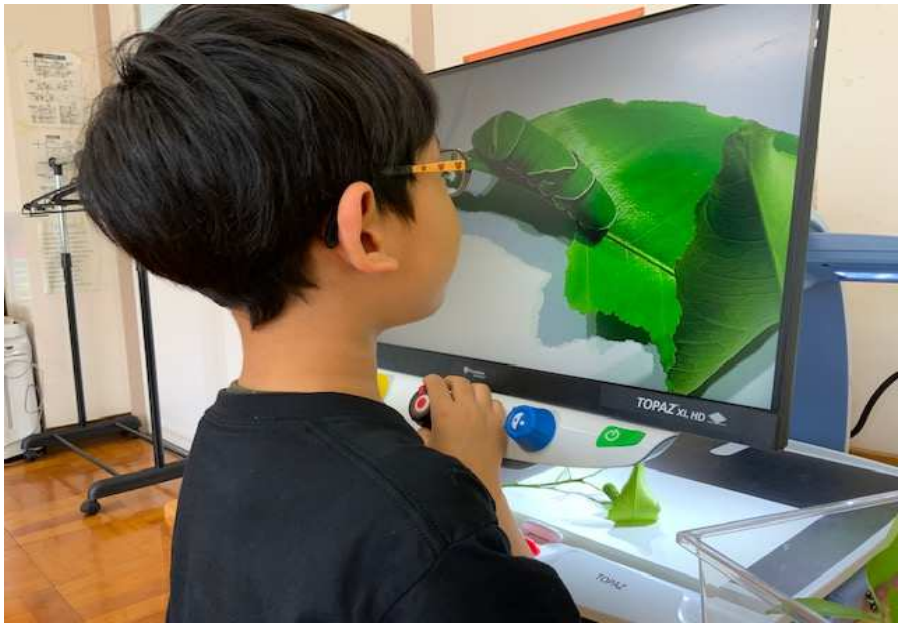
Ｐ　Ｔ　Ａ名		静岡県立沼津視覚特別支援学校ＰＴＡ
学校	対　象	☑視覚障害　☐聴覚障害　☐知的障害　☐肢体不自由　☐病弱
	設 置 部	☑幼稚部　☑小学部　☑中学部　☑高等部
	全校児童・生徒数	26名

1. 使用状況

寄贈物品名	拡大読書器
使用学年及び人数	小学部9名（うち主として3名）
使用頻度	毎日
使用状況	国語や算数の学習では、プリントや教科書を拡大するのに使用している。理科や図工では文字だけではなく、教材などの提示したい実物を拡大している。基本的には毎日、使用している。
物品の使用による変化や効果	弱視の児童にとって学習を進めるうえで、できる限り見やすい状態で見ることが学習の基盤になる。拡大読書器では、例えば教室で自分たちで飼育している虫が葉を食べている様子など、動きのある題材でも拡大して見ることができる。ウェブ上で動画は探せるかもしれないが、自分が日ごろから接している虫が、実際に目の前で動いている様子を観察できることで学習を深めることができる。児童が意欲的に活動し、目の前の事象を言語化することで、思考を高めることができる。
今後の活用の見通しや課題	弱視の児童にとって拡大読書器は学習を進めるうえで必要不可欠である。見える大きさ、明るさなどを調整し、自分で操作をしながら学習を進めることで、主体的な学習につなげたいと考えていた。現状では先ほど書いたように学習の様々な場面で効果が見られ目標が達成できている。今後は、算数での定規の目盛りや、時計など細かい数値を読むことにも活用できると考えている。さらに、図形の学習などで画面で拡大された状態を確認しながら、図などを書くことができるように指導していく。操作に習熟し、学習の機器として活用したい。
その他希望や所感など	最新式の拡大読書器は画像が非常に明るく鮮明で、見えにくい弱視の児童にとっては鮮明な画像であることが非常に有用であることが改めて分かった。

2. 活用の様子

葉を食べている様子を拡大している



拡大して見ている児童